

「総合診療かかりつけ医」がこれからの日本を救う

医療法人 ONE きくち総合診療クリニック理事長 菊池大和



きくち総合診療クリニックは、綾瀬市人口約8万2000人のうち、半分が受診しています。診療理念は、「いつでも、なんでも、だれでもまず診る」です。当院では、いろんな病気がみつかります。そのほとんどの方が、別にかかりつけ？をもっています。患者さんの

中では、くすりを出す先生と、いざというときの先生が違うようです。ほとんどの開業医や病院の外来では、自分の専門分野のくすりのみ処方するだけになっています。患者さん側も、自分の不安なことを言わないようです。つまり、日本の国民のほとんどがかかりつけ

の意味を理解していません。医師も理解していません。

高齢者には、いつ、なにがおきるのか、わかりません。転んだり、痛かったり、だるかったり、ごはんをたべられなかったり、倒れたりします。そのときに、自分がかかりつけ医とおもっている病院に行っても、専門外と言われ、普通に断られることもよくあります。診てくれないこともよくあります。また医師は自分が心臓専門なら心臓の検査をして異常なければ、心臓は大丈夫ですとだけ言って、ほかに行ってください、と平気で言うでしょう。その方が困っていてもです。そうすると患者さんは、もうそこには行かずまた自分や家族がほかの病院をさがさないといけません。とてもおかしい話です。今の開業医、病院の

医師は専門ばかり考えます。つまり、日本には、本当のかかりつけ医が少ないのです。これは、手遅れになる高齢者が増える原因です。

つまり、家の近くに気軽に相談できて、自分のことをよく知っている総合診療かかりつけ医がいれば、病気を早期発見できます。手遅れになる高齢者を出さないようにするのが、地域を守るかかりつけ医の仕事です。認知症が増え、老々介護が増え、一人暮らしが増える超高齢社会。気軽に受診できる総合診療かかりつけ医が日本中に拡がれば、高齢者、地域医療を守ることができます。20年後は、日本のクリニックが激減し高齢者は過去最高に増えます。どんな症状でも診てくれて、病気を見つけてくれる、安心させてくれる、総合診療かかりつけ医を全国に。